

今年も 40度近くもの驚異的な猛暑が続いているため、子ども達の体調管理にはより一層の配慮をしながら ひとりひとりが無理のないように過ごしている毎日です。例年より早い時期から頻発している台風、各地で起こっている大きな地震、山の噴火、また、つい先日 西日本に甚大な被害をもたらした大豪雨や、今回の台風12号では今もなお 多くの方々が その影響に脅かされながら 眠れない夜を送っていることに胸を痛めています。ここ最近の自然界の営みには大きな不安と共に恐怖を感じます。これまでの様々な経験を通して得てきた私達の常識や知識を遥かに超え、その予測を大きく覆す状況に、自然に対する人間の無力さを しみじみと痛感させられています。そして 改めて私達人間は 神様の御手の中で 生かされている存在であることを思い そこへ立ち返るべき生き方について考える機会を神様から示されている気がします。

旧約聖書の第1章には、この世の初めである『天地創造』の御業の様子が 細やかに記されています。神様は、真っ暗で何も無かった『闇』から『光』を創られました。この世界は 一筋の光の誕生によって 明るくなり、すべてが見えるようになりました。それから1日1日、神様は「ことば」によって ひとつひとつ丁寧に創られ その度に「よし。」と言われました。そのビジョンは一つ「天国と同じ 清らかな世界」でした。6日目、神様は願いどおりに完成された すべてをご覧になり その素晴らしさを喜び 心から満足されました。そして考えられたのです。「大切な大切なこの美しい地上を わたしと同じ想いで 尊重し、愛し、いつくしみ、守ってくれる存在を 創ろう」と。そこで 神様は すべての御業の最後に『神様と同じかたち』の『人』を創られました。神様が この世に於いて 人間を必要とされた目的は 世界の管理を委ねるためでした。すべてが 神様による被造物であり、そのひとつひとつに「よし」と太鼓判を押され 御手の中に在ることを聖書の記述によって実感できます。生きとし生けるものの中で 唯一、人間だけは ことばのみならず、塵（土）を集めて形造られた後、神様の息を直接 吹き込まれたことで命を与えられ、生きることを始めることが ゆるされました。そして 私達人間は、どの被造物よりも優れた存在として尊ばれ、神様と同じように 想う『心』と『言葉』を 授かりました。それは「この世界（自然・命）を 愛する」という重要な使命があるからです。人が人として生きる目的とは、ここにあるのです。どの命も すべて生かされている存在であり、分かち合うことを 神様は願っています。その本質を忘れて、自分勝手に生き、お互いの命を大切にしないで傷つけ合っている 私達人間の生き様に 神様は悲しまれ、今 厳しく警告を出されているのではないかと 激しい怒りにも感じられる自然の様々な現象を通して、深く考えさせられるこの頃です。

今月15日は、73回目の終戦記念日です。そして6日には広島、9日には長崎に原爆が投下された日です。戦争は、殺し合いであり 人災です。神様から与えられた たった1つの命、たった1度の人生を 互いに奪い合う権利を 人間は持っていません。無い権利を行使し、神様が造られた美しい世界や 命を 滅茶苦茶に破壊してしまった その傷跡の深さと代償の大きさを想う時、果てしない罪の重さと責任を思われます。時代が変わろうとも、永遠に平和をつくり続けていくバトンを子ども達に託すために この悲しい記念日を『悲しい』と感じる心を育まなければならない、戦争の悲惨さを知る努力をし続けていかななくてはならないと その責任と意義を痛切に感じています。今年も成田市の『折鶴平和プロジェクト』に子ども達と参加できましたことを心より感謝すると共に 世界中の人の心が神様の愛と平和に満たされますようお祈りします。「地とそれに満ちているもの、世界とその中に住むものは主のものである。(詩篇24:1)」（石田 記）